中日新聞 CHUNICHI Web

【福井経済ニュース】

まんじゅう手渡し、挙式せず…３分の１　県内結婚式にも“変革”の波

2008年11月9日

若い世代の結婚観と同様に、男女が「永遠の愛」を誓う結婚式も大きく様変わりしている。「古くさい」「身内だけで」と挙式をやめたり、簡素化するカップルも増え、結婚式も個性の時代を迎えている。そんな若者たちの結婚最新事情に迫った。　（清兼千鶴）

今夏誕生した２０人収容の小さな結婚式場「Ｍａ」。結婚式や披露宴の形態も多様化している＝福井市のジャムジャムで

■結婚の今昔

長持唄（ながもちうた）に乗せて嫁入り道具を運ぶガラス張りのトラック、新郎宅の二階からまんじゅうをまく「まんじゅうまき」…。福井らしい婚姻の風習も、最近では見掛ける機会がぐっと減った。

まんじゅうを婚礼用の赤い箱に入れ、新郎宅に届ける風習は同じだが、それをまかずに手渡しするのが今風。「若い人たちの考え方が変わったのかな」。坂井市三国町の菓子店「にしさか」の西坂優店長（６０）は、古き風習が姿を消しつつあることを残念がる。

結婚後の新居は、一軒家よりアパートやマンション派が圧倒的に多い。結婚したばかりの福井市内の女性会社員（２８）も、夫婦二人の「マンション暮らし」だが、そうした現実的な住環境が、ガラス張りのトラックが走らなくなったことに拍車を掛けているようだ。

関連団体が出会いの場提供

■事前サポート

今年四月、県内ブライダル関連の六十三団体・個人で、全日本ブライダル協会県支部が発足した。同支部によると、県内で二〇〇五年にゴールインしたカップルは約四千二百組だが、そのうち三分の一は結婚式を見送ったという。

同支部は業界全体のスキルアップが目的だが、出会いのサポートや結婚へのイメージアップも課せられた使命だ。男女の結婚年齢が遅くなる中、講座の開講などと合わせ、パーティーを開いて男女に“出会いの場”を提供している。

小さな式場、資料図書館も

■業界に新風

福井市北四ツ居三丁目のブライダルプロデュース会社の「ジャムジャム」に今年八月、二十人収容の小さな結婚式場「Ｍａ」が誕生した。挙式を迷う人、挙式してない人向けの記念ウエディングなど、さまざまなリクエストに応える。

運営する内田伸子社長は「挙式はけじめ。新生活のスタートの節目を応援したい」と、開設の動機を語る。

同市内に十月、全国十七番目となる「ブライダル図書館」がオープンした。ブライダルに関する雑誌や書籍百冊以上が自由に閲覧できるほか、結婚に関する疑問に対してブライダルアドバイザーが相談に応じてくれる。

就業形態や価値観が変わる中、母校などの思い出の場所での挙式や、二人だけの海外挙式なども増えている。結婚のスタイルにも、「変革」の波が押し寄せている。

Copyright c The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.